お元気ですか！
志 村 たかよし です

第８６５号　2017年11月19日

日本共産党中央区議団
中央区　築地 １－１－１
電　話 ３５４６-５５６３
ＦＡＸ ３５４６-９５７０

都の追加対策を疑問視する声が上がるなか

豊洲新市場追加対策工事　８件中６件が入札不調

東京都は、豊洲新市場の土壌汚染対策として、地下水管理システムの機能強化や、盛り土をしていない地下空間の底にコンクリートを敷設するとともに、汚染された空気を外に強制換気する追加工事を行うことを決めています。

…ちなみに、専門家からは、この汚染対策は効果が期待できないとの批判が噴出しています…

この工事の入札が、10月30日と11月13日に行われましたが、８件のうち６件が入札不調となり、工事のめどが立たない状況です。

都が計画している「来年10月移転」への影響は避けられません。

地下水がたまっていた建物地下の空間＝都議団

「もうからない仕事はやらない」

地下水管理システムは３件とも予定価格を大幅に超えたことなどから、登録した30社がすべて辞退し、入札不調となりました。

新市場用地の汚染対策の柱にしている地下水位を下げるために揚水ポンプなどを増設する工事入札は、５街区（青果棟）で鹿島建設など10社、７街区（水産卸売場棟）では大成建設など10社が参加しました。

いずれも予定価格の１・７倍から約２倍と大幅に超過し、２回目の入札を辞退しました。

６街区（水産仲卸売場棟）は登録企業10社がすべて辞退し、入札不調となりました。

２件の工事入札で、鹿島と大成の応札額は都の予定価格（各４億円台）を３億円以上も超過しました。

大手ゼネコン関係者は「もうからない仕事はやらない」と強気だそうです。

６街区の地下空間床面にコンクリートを敷設する工事では、清水建設が７億１１７２万円で応札しましたが、予定価格を約25％上回ったため不調となりました。

落札した２件は、換気設備工事１件と５街区の地下空間床面にコンクリートを敷設する工事１件だけでした。

大混迷の移転計画は抜本見直しを

都の幹部は「完成工期が定められているので再入札を急ぐ必要がある。しかし工事費を大幅に増やすことには、世論の目が厳しい」と、赤旗記者に語りました。

都は、東京２０２０大会に間に合わせるために、追加対策工事を来年７月までに完了させたい意向ですが、入札不調の続出だけでなく、仲卸業者に移転反対の新たな動きが広がるとともに、移転先の江東区が「現状のままでは、受け入れは困難」と表明するなど移転計画は大混迷しています。

問題山積の豊洲移転計画は、抜本的に見直すべきです。

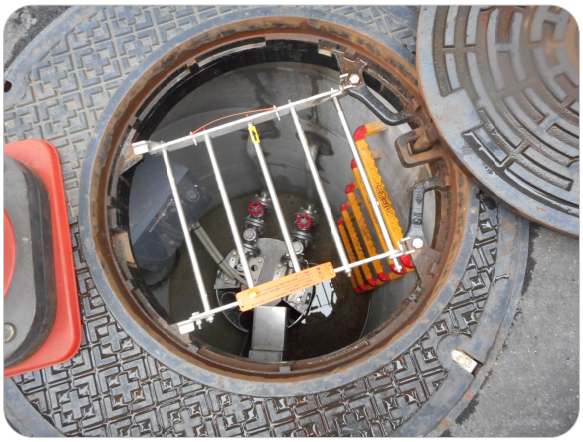
全員協議会で 豊洲新市場を視察（終）

― 「効果がない」と指摘される地下水浄化システムも視察 ―

豊洲新市場を建設した東京ガス工場の跡地は、発がん性物質のベンゼンが環境基準の４万３０００倍、シアンが同９３０倍をはじめ、ヒ素、水銀などの有害物質で高濃度汚染されていました。

小池都知事は、汚染を環境基準以下に浄化する「無害化」を都議会と市場業者、都民に約束し、専門家会議の提言をもとに８６０億円を投じて土壌汚染対策工事を実施しましたが失敗しています。

にもかかわらず、小池知事は、６月に豊洲への移転方針を決め、７月には「無害化」の約束を撤回しました。



左上の写真は、青果棟の前にある地下水モニタリングポストです。

８月の調査結果で環境基準１２０倍のベンゼンを検出した場所です。

左写真は、汚染地下水を浄化するシステムのマンホールで、下の４枚の写真は、浄化施設の内部です。

莫大な税金を投入しても、ベンゼンなどの汚染物質が次々と検出され続けていることは、浄化システムではきれいにできないことを証明しています。

phot by shimura

ブログもごらんください　志村たかよしワールド　検索